



「未来を広げる、ボランティアの特別授業 ボ学」のご紹介



2025.7

ボランティアを支援する民間団体です。

ボランティアプラットフォーム「ぼ活！」を中心としたボランティアマッチング事業や、ボランティアに関する情報発信事業、学生向けのボランティア連携を行っています。



【沿革】

- 2010年 NPO法人日本学生ボランティアセンターとして設立
学生のボランティア活動を支援
- 2015年 一般財団法人日本財団学生ボランティアセンターに
- 2017年 公益財団法人へ移行
- 2021年 日本財団ボランティアセンターへ名称変更
- 2022年～ 学生だけではなく幅広い世代へ対象を広げ、
ボランティアに関する事業を実施

写真、動画、実際の活動に使ったグッズなどを使い、講師の体験談を交えながら、ボランティアについて楽しく分かりやすく伝えます。



①中学校向けの出前授業

中学生を対象とした授業を、講師と日本財団ボラセンスタッフが御校へ訪問して開催 講師・教材などすべてこちらでご用意いたします

②ボランティア経験者が講師

さまざまなボランティアの現場での実体験など、生の声で具体的な活動や魅力を伝え、生徒の興味関心を高めます

③ボランティアの魅力を語る

誰かのために活動をするだけでなく、自らの喜びにもつながるボランティアの多様性・楽しさを伝え、視野が広がるきっかけに

④45～50分

通常の授業枠に取り入れやすい長さです（調整も可能）
講師による説明に加え、動画や副教材を活用して展開します

⑤無料

費用の負担はありません、副教材も無料配布します
会場となる教室だけをご用意ください

ボ学 ダイジェストムービー



<https://youtu.be/WIFr0BsJOi0>

学習指導要領には中学校でボランティアについて学ぶことが明記されています。

主題名「ボランティア活動の意義」

社会参画の意識と社会連携の自覚について多面的に考えることから、それらの意義を理解し、
 集団の一員として社会に積極的に関わろうとする道徳的実践意欲と態度を育む。

参考資料・参考記事など

■ボランティアを知る・活動するためのサイト紹介

①日本財団ボランティアセンター

ボランティアプラットフォームサイト「ぼ活！」(<https://vokatsu.jp/>)

「ぼ活！」は、日本財団ボランティアセンター（日本財団ボラセン）が運営する日本最大級のボランティアプラットフォームサイトです。

日本財団ボラセンでは、調査報告などの情報発信事業、全国各地の大学との連携事業や、道徳や総合学習の授業の一環として、ボランティア経験者が講師を務める中学校向けの出前授業「ボ学」 (<https://www.volacen.jp/project/vogaku/>) などを行っています。

②ボランティアとは?背景や四つの原則、
具体的な活動例・参加方法を解説

The Asahi Shimbun SDGs ACTION

(<https://www.asahi.com/sdgs/article/15335431>)

「朝日新聞SDGs ACTION!」ホームページ内記事(最終更新:2024.07.30)。
ボランティアの4原則のほか、ボランティアのメリットや参加するときに気をつけたいこと、参加の方法などわかりやすく解説しています。



ボランティア経験者が講師を務める中学校向け出前授業「ボ
学」のリーフレット(ホームページ内からダウンロードできます)

中学校 1 年の「道徳」の指導書では、ボランティアについて知るきっかけとして、ボ学が取り上げられました

ボ学は、学校教育の一環として活用できます。

普段の授業だけではできなかった、学びの広がり、深まりを生徒に届けませんか。

道徳教育 誰かを笑顔にできると、私も笑顔になる。

ボ学で、ボランティア活動について学ぶことは、学習指導要領の項目にも記載されている、他者への思いやりの大切さを知ることや、生徒の自立心、責任感、協調性、相互理解・共感性など、道徳的な価値観を育むための実践的な場になります

特別活動 私の働きや学びが、社会のために役立つ。

キャリア教育につながる授業として、ボ学を活用いただけます。ボランティアへの参加が、様々な方とのコミュニケーションを取るきっかけになり、自己肯定、自己成長にもつながること、働くことの意義に気づき、将来の進路を考えることにも役立ちます



学校・地域のニーズに合わせて 柔軟に授業内容を組み立てます。

ご要望をお聞きし、適任の講師・ニーズに沿った内容で実施できるよう調整します。

【学校の要望によって講師・授業の選定をした具体例】



ニーズ① 阪神淡路大震災から30年を迎えた年なので、災害ボランティアについて話して欲しい。ボ学の後に防災訓練を行うので、つながる話を希望

実際に東日本大震災、能登地震のボランティアに参加した講師が登壇し、活動内容の話と震災は助け合いが必要だという話をしました。講師も阪神淡路大震災の被災者であったため、災害についてさまざまな立場から話せる人材であることも踏まえて選定しました



ニーズ② 自分のためになるボランティアについて話をしたい。生徒は学校から言われて実施しているため、もしかしたらやらされた感があると感じる

ボランティアの現場では「ありがとう」を言われることが多く、自分から「ありがとう」と返すことも多い、「ありがとう」が飛び交うのがボランティア、という話をしました。また、出会った人とのつながりが大切で、自分自身も成長できることを講師の実体験を交えながら伝えました

地域・自治体のボランティア活動と 中学校がつながるきっかけになります。

ボランティアへの関心が高まり、地域・自治体での活動に参加するようになった生徒がいます。学校と地域・自治体がつながることでボランティアの輪が広がります。

地域・自治体の
ボランティア活動



中学校・生徒

将来活動に参加する人材が育つ
ボランティア参加者の層が広がる
学校と地域・自治体の接点生まれる



ボランティアへの興味・関心
進んで参加したいという気持ち
自分も地域や社会で役立てるという気づき



①ボランティア経験者が講師

さまざまなジャンルで活躍するボランティア経験者が、実体験に基づいた内容を語ることで、生徒の関心が高まります

②ボランティアについてオリジナル動画で紹介

ボランティアについて、さまざまな事例の映像と共に理解できるオリジナル動画が組み込まれます



③講師以外のボランティア経験者からのメッセージも動画で紹介

大学生など、生徒と年齢が近い経験者からの体験談を動画で紹介、親近感を高め、自分ごと化につなげます

④教師以外の人と接する機会に

生徒にとっては、普段あまり機会がない世代を超えた交流となり、成長のきっかけが生まれます



地域貢献 社会の一員としての自分に気づく

講師：田植えや収穫など、農家の仕事を手伝うボランティアの経験者

授業：社会の一員として自分が働くことが役に立つという体験談

地域の人との交流で生まれるボランティアの楽しさを伝えます



環境保全 自然の大切さを、仲間と共に知る

講師：海岸や町のごみ拾いをするボランティアの経験者

授業：自然や地域の環境を守る大切さ、同じ目標のために、大勢の仲間

と共に活動することで生まれる一体化や友情について伝えます



災害支援 助け合い、元気を届ける大切さ

講師：豪雨や地震などの災害にあった地域でのボランティアの経験者

授業：被災した家屋の片づけ、支援物資の搬送、被災者を元気づけるイベントの実施、被災者の話を聞くなど多岐にわたる活動や、今、自分にできること、助け合うことでもらえる元気について伝えます



海外支援 海外だけでなく国内の外国人へも

講師：海外の方を支援するボランティアの経験者

授業：戦争や紛争からの避難民の方のサポートだけでなく、日本国内に住む外国人の方のサポートなど、言葉や文化を越えた支え合いの大切さや、グローバルな視点を持つことが成長につながると伝えます



スポーツ 挑戦する人を支え、参加する喜び

講師：多くのスポーツ大会で進行を支えたボランティアの経験者

授業：国際的な大会でのアスリートとの交流、ボランティアだからこそ経験できた貴重な体験、自らの活動が多くの人の感動につながることにについての喜びを伝えます



イベント 共に成功へ、感動を分かち合う

講師：さまざまな方が参加するイベント運営ボランティアの経験者

授業：幅広い世代、たくさんの人とふれあい、協力することでしか実現できない、大きな目標へ向けて頑張る素晴らしさ、そこで生まれる経験や自身の成長について伝えます

授業は講師が中心となり、ボランティアについて楽しくわかりやすく説明
経験豊富な日本財団ボラセンスタッフがファシリテーターとしてアシストします。



挨拶・講師の自己紹介（10分）

経歴やボランティアを始めたきっかけについて

ボランティアについて生徒が知っていることを発言してもらいます



動画教材・副教材でボランティアの概要を紹介（５分）

道徳や特別活動にもつながりやすいボランティアの原則などを解説

ボランティア参加者の人数や年代のデータも紹介しています



ボランティアの体験をスライドを交えて紹介（20分）

写真を多用しながら実体験を紹介 実際に使ったユニフォームなどのグッズを

みてもらいながら、楽しかった経験、なぜ続けるのかなどを生の声で



学生ボランティアの体験談動画（5分）

生徒と比較的年齢に近い大学生の体験談や活動の様子を動画で紹介します

将来ボランティアをする自分の姿を生徒が想像するきっかけを作ります

質疑応答 (10分)

授業内容・講師への質問、授業の感想など

授業終了

終わりの挨拶 解散

開催する先生は授業を見学、もしくは生徒と一緒に授業に参加してください。

講師の授業を、日本財団ボラセンスタッフが進行役としてアシスト、資料を投影しながら進めます



授業の一環になるようにボランティアの原則やボランティアの今（参加人数・分野）を分かりやすい動画で紹介



講師が実際に使った名札などのグッズを紹介しながら生の声で体験を語ります



実際に活動で使ったグッズで生徒の関心を高めます



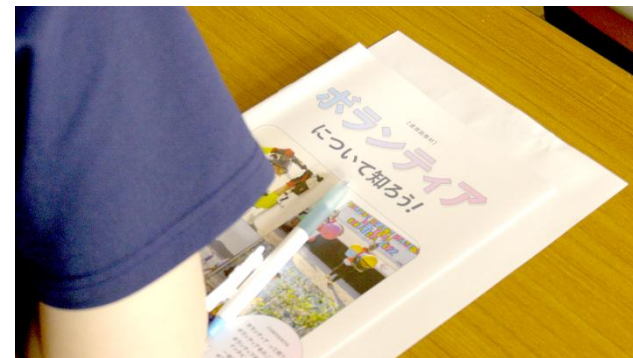
学年単位など大人数向けは体育館で実施することも



大学生のボランティア体験談を動画で紹介 生徒が将来、自分で活動することを想像しやすく

生徒一人一人が授業の主役、講師の話を聞くだけではない時間を作ります。

授業では、講師から生徒へ質問をしたり、生徒の声を聞く時間を設けることで、積極的に授業に参加しやすい雰囲気を作ります。



開催校・地域は年々増加、授業の一環として、毎年開催している学校もあります。

実績校

96校

東京都、長野県、兵庫県、
福島県、他
首都圏以外にも実績あり

対象学年

中学生

1～3年

小学校、高校でも実績あり

生徒数

14,798人

2022年度 実施校 7校（埼玉県、東京都、神奈川県）生徒数 1,464人

2023年度 実施校 34校（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、大阪府、兵庫県）生徒数 5,555人

2024年度 実施校 55校（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、福島県、大阪府、兵庫県、山口県）生徒数 7,779人



ボランティアが楽しいものだと教えてもらい、
これからボランティアをしようという気持ちの
後押しをしてもらった感じがしました。



誰かのための活動で始めたものが、
その活動を通して地域の人や事業を知ること
巡り巡って自分の役に立つだろうと思いました。



ボランティア同士が仲良くなれるとは思いませんでした。
ボランティアでいろいろな出会いがあって、
いろいろな似ている思いの人と仲良くなれるのは
とても面白そうでした。



講師の方が言っていた、人を笑顔にして自分も笑顔になる
という素晴らしい循環を自分もやっていきたいと思いました。



海外のことに少し興味があって
今も戦争や紛争が起きている地域があるので
被害にあった方を支援していきたいと思いました。



生徒たちにとってとても良い機会になりました。
内容もわかりやすく、ボランティアが人の為だけでなく、
自分の成長にもつながることを理解することができました。



実体験を元に語るのも、我々教師が話すよりも熱量があり、
生徒も引き込まれていました。



生徒たちが自分たちにもできるボランティア活動を考えた時は、
募金活動や清掃活動しか出てきませんでした。
講師の方々のお話を聞いて生徒たちも、
ボランティアに対する考え方が広がったと思います。



講師の方の言葉は、生徒たちの心にすごく入ってきて、
ボランティアの良さ、一步踏み出す勇気を持てる話でした。



ボランティアに関心を持った生徒が地元の祭りなどに
ボランティアとして参加したのを見た保護者が、
受験勉強以外のことも学んでいると喜んでいました。

ボランティアの概要が学べる副教材を無償で配布しています。



ボ学の中でお渡しします 道徳や特別活動の教材としても活用いただけます
副教材だけの無償配布も行っています

詳細・お申し込みは日本財団ボラセンまでお問合せください

【掲載内容】

- ・ ボランティアって何? …ボランティアの原則などを解説
- ・ ボランティアの今 …ボランティアに参加している人の人数や年代のデータ
- ・ ボランティアあれこれ …ボランティアの種類や様々な活動の紹介
- ・ ボランティア経験者インタビュー …実際に参加した方々の活動や思いを掲載
- ・ 当副教材ふりかえりワークシート …生徒の皆様が記入できるワークシート



「ボランティアについて知ろう!」
B5サイズ・16ページ



約 1 ～ 2 か月前

(1) 要望のヒアリング

授業の目的や内容についての要望を詳細にお伺いします



約 1 か月前

(2) 講師の調整

学校の要望に応じた講師のアサインを実施します



約 2 週間前～当日

(3) 当日の打合せ

研修当日、会場準備、資料準備、講師との最終確認を行います



- ・ クラス単位、学年単位など開催人数は応相談 （1 クラス程度が生徒の集中力も高まるためお勧めです）
- ・ 会場は教室・講堂などを想定 こちらで用意する P C から資料を投影できる環境をご用意ください
- ・ 当日は講師と日本財団ボラセンスタッフ（1 ～ 2 名）が御校に伺います
- ・ 機材設定、撤収のため授業の前後30分程度お時間をいただきます



3年間の中学生生活の中で、 1度は受けてもらいたい授業

中学生生活のカリキュラムの一つとして、ボランティアを学ぶ機会を開催が不定期だと学ぶ機会を失う生徒が出てしまうことがあります



年間活動に予め組み込んで継続することで 学校の授業の多様性のひとつになります

年間の活動に組み込むことで実施のノウハウも蓄積され継続しやすく
授業計画も立てやすくなります



担当者変更の場合の引き継ぎのお願い



ボ学を開催しても、担当の先生が異動になった場合などに、翌年からの開催が途絶えてしまうことがしばしばあります。生徒たちのために生まれた「ボランティアを学ぶ大切な機会」が失われることのないように、後任の先生への引き継ぎ、学びのバトンリレーを、ぜひよろしくお願いいたします。



ボランティアには、正解はありません
 だからこそ、わたしたちの体験を伝えたい
 未来の、明日の、みんなの笑顔が育つように



お問合せ
お申し込み



<https://www.volacen.jp/contactus/>

この資料の
ダウンロード



<https://vokatsu.jp/vogaku250704.pdf>

運営団体

公益財団法人日本財団ボランティアセンター

TEL : 03-6206-1529

E-mail : info@volacen.jp

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル4階